

小型環境試験器

熱ストレスおよび湿度ストレスは環境ストレスとして最もポピュラーなものであり、多くの製品故障に深く関わっています。このため製品や材料の温度・湿度に対する耐性を知ることは非常に重要です。産技研では温湿度設定のプログラミングが可能な小型環境試験機を導入いたしましたのでご紹介いたします。

温湿度環境試験

温湿度環境試験は、温度・湿度やその変化に起因する故障を調べるための環境試験の1つであり、電子部品や電気製品に限らず、プラスチック製品、金属製品等、幅広い分野で行われ、初期故障のスクリーニング、使用環境での安全性・動作確認、耐久性の確認、信頼性の確認等にはなくてはならない環境試験のひとつです。

産技研ではこのたび小型環境試験器を導入いたしました(図1)。この小型環境試験器は高温(又は低温)試験、恒温恒湿度試験だけでなく、温湿度設定のプログラミングにより、図2に示すような温湿度サイクル試験にも対応できるようになりました。環境試験の一環としてご利用下さるようご案内申し上げます。



図1 小型環境試験器

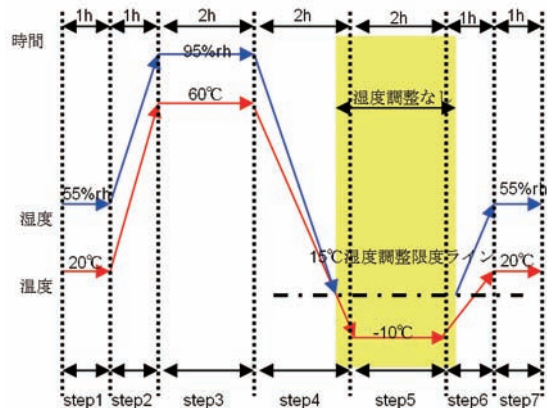


図2 温湿度サイクル試験のパターン例

対応可能なJIS試験例

- (1) 温度変化試験方法
- (2) 温湿度サイクル(12+12時間サイクル)試験
- (3) 温湿度組み合わせ(サイクル)試験方法

使用例

- (1) 温湿度環境におけるプリント基板の絶縁性評価(ファインパターン化したプリント基板の使用環境における絶縁性劣化等を評価する)
- (2) プラスチック張り合わせ製品の温湿度に対する安定性評価

主な仕様

- (1) 温度範囲: -60°C ~ +150°C
- (2) 湿度範囲: 30 ~ 95%rh (図3参照)
- (3) テストエリア: 40×40×40 cm

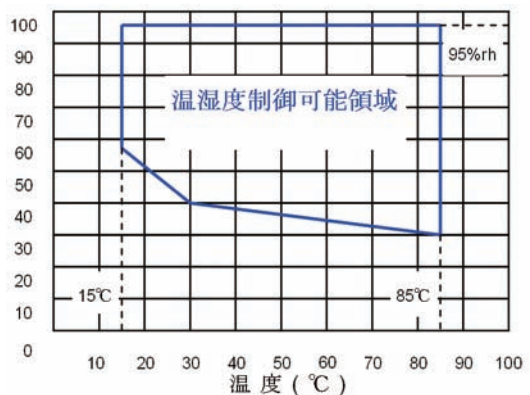


図3 温湿度調整可能範囲

研究開発部第一部

エレクトロニクスグループ<西が丘本部>

浜野智子 TEL 03-3909-2151 内線 477

E-mail: hamano.tomoko @iri-tokyo.jp